

日本女大家政

○千葉

桂子

樋口 ゆき子

日本女大計算研究所

二宮

玲子

目的 着心地の良い衣服とは、人体の形態および機能性に良く適合した衣服である。形態適合性や動作適合性を高めるためには、合理的な衣服サイズやゆとり量の設定が行われなければならない。そのためには、人体の寸法や体型の把握が必要である。そこで本研究では、身体計測値相互の関連性を捉え、衣服サイズ設定のために体型の分類を行い、さらに年代別の差異を捉えた。資料は、1978年～1981年の通商産業省工業技術院「日本人の体格調査」を用いた。

方法 年齢別に身体計測値の変化を相対的に捉えるために、衣服設計に関連のある16項目を選び19～46歳について20歳と25歳を基準にモリソンの関係偏差折線を求めた。次に体型の特徴を捉えるために、主成分分析を行った。さらに、衣服サイズの設定について検討するために、フィット性を必要とする背広・Yシャツ類やフィット性を必要としないコート・セーター類などのためのサイズ設定の基準となる身長・上部胸囲・腹囲・腰囲・頸囲の5項目を用いて分割型クラスター分析を用いて体型の分類を行った。

結果 25歳でほぼ成長は落ち着くが、腹囲については年齢の経過に伴ない大きくなっていく。年代別の主成分分析では、第4主成分までが抽出された。第4主成分は、「身体の大きさと肩部付近の大きさとのバランスに関する因子」と解釈でき、成人男子の特徴といえる。クラスター分析により得られた5つの体型別に、基準化した値による体型パターンを表し、特徴を明確に捉えることができた。また年代別の各体型の分布状況から、サイズ設定のための情報を得ることができた。